



平成25年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月8日

上場会社名 アプリックスIPホールディングス株式会社
 コード番号 3727 URL <http://www.aplix-ip.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 郡山 龍
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 伊藤 洋

TEL 050-3786-1715

四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第3四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	4,374	△23.5	△1,878	—	△1,809	—	△1,785	—
24年12月期第3四半期	5,718	△19.3	△1,448	—	△1,459	—	△2,200	—

(注) 包括利益 25年12月期第3四半期 △1,622百万円 (—%) 24年12月期第3四半期 △2,199百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第3四半期	△142.26	—
24年12月期第3四半期	△175.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第3四半期	10,650	8,684	82.0
24年12月期	12,580	10,308	82.3

(参考) 自己資本 25年12月期第3四半期 8,732百万円 24年12月期 10,355百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年12月期	—	0.00	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,633	△24.9	△2,493	—	△2,425	—	△2,448	—	△195.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年12月期3Q	12,553,930 株	24年12月期	12,553,930 株
25年12月期3Q	6,998 株	24年12月期	5,063 株
25年12月期3Q	12,547,698 株	24年12月期3Q	12,550,564 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における移動体通信市場は、国内外におけるスマートフォンの急速な普及等大きな変革期にあります。巨額の費用を投じて開発された質の高いOSやミドルウェア等のソフトウェア基盤技術が無償で配布されるようになり、また、規制が厳しく一般からの参入が難しかった通信事業者のコンテンツマーケットから、誰もが手軽にコンテンツを提供できるオープンマーケットへの移行が進み、従来のミドルウェアやカジュアルコンテンツの事業からの転換が急務となっています。

このような市場環境において、当社グループは、「M2M」と「総合エンターテインメント」をキーワードに、従来から培ってきた通信や制御の技術とコンテンツ制作能力を競争力の源にできるよう、事業領域のシフトを急速に進めております。当連結会計年度においては、従来型携帯電話端末（以下「フィーチャーフォン」）からスマートフォンへの対応に事業体制を変えていくことが急務であり、来期（平成26年度）以降の収益性の改善と売上高の増加に向けて大きな事業構造の変革を進めております。

(a) ソフトウェア基盤技術事業

テクノロジービジネスの分野では、従来のソフトウェア基盤技術を中心としたビジネスを急速に縮小し、M2Mで収益を伸ばす体制への大きな変革を進めております。

海外においては、フィーチャーフォン向けのミドルウェア「JBlend」の搭載数の大幅な減少に伴い、「JBlend」を提供するための事業体制を維持する必要性が低くなっております。これに伴い、海外事業所の閉鎖や現地子会社の大幅な縮小等を実施しており、来期には、前連結会計年度に比べ7億円以上の年間コストの削減が見込まれております。

国内においても、当第2四半期連結会計期間にて一時的に利益を圧迫した状況は脱し一定の回復とはなりましたが、当第2四半期連結会計期間から続いている新規開発案件の受注の減少をカバーするまでには至らず、フィーチャーフォンの出荷台数の想定以上の減少等も収益力を低下させております。

M2Mの分野においては、急速に立ち上がりつつあるM2M関連市場で来期大きく利益を出せるような体制の構築を進めており、高い競争力を実現するためにスマートフォン向けの高度なミドルウェアを開発していたスタッフもM2M関連製品の開発やマーケティング等に漸次移行させております。当第3四半期連結累計期間においては、搭載製品の海外における販売が開始される等、当社M2M関連製品の採用が進んでおります。来期、当社グループ連結売上高の30%以上を担う事業分野とすべく、引き続き収益力の強化に取り組んでまいります。

(b) コンテンツ・サービス等事業

総合エンターテインメントの分野では、当社グループ各社の連携によるシナジー効果を追求する前段階として、まずはゲーム・アニメーション・出版のそれぞれの事業領域において単独でも利益が出せるよう事業構造の改革を進めております。

ゲーム事業においては、前連結会計年度からの課題である収益性改善について、当第3四半期連結累計期間における効果は限定的なものに留まりました。しかし、今後に関する支出面では、ゲーム事業における売上高の30%を超える規模に増大した外払いの年間ライセンス費を従量制に変えることにより大幅なコスト削減を実現できたため、来期以降の収益性の改善の目途が立っております。また、収入面ではスマートフォン関連の売上高構成比率を50%近くまで伸ばしており、来期は70%以上の売上高がスマートフォン関連から得られる事業構造へと変革しております。

アニメーション事業においても、前連結会計年度からの継続課題として事業構造改革に取り組んでおりますが、いまだなお幾つかの受託案件の収益性は厳しい結果となっており、当第3四半期連結累計期間における改革の効果は限定的なものに留まっております。しかしながら、利益を出すことが難しい受動的な完全下請けを減らすと同時に外注費も大幅に削減し、高い収益性を目指して自ら案件を提案していくビジネススタイルへの変革を進めており、当連結会計年度は借入金を減らして来期に向けた事業構造への改革を進めております。

出版事業では、直近1年間でコミックの発行部数を2倍以上に伸ばし、年間発行部数が200万部に達しようとしています。児童書も作品に恵まれ、少子高齢化が進む中、善戦しております。来期はコミックの発行部数が300万部を超え、更に児童書に加え一般書の発行も予定しており、当社グループの収益に貢献できると見込んでおります。

これらの事業構造の改革により、当第3四半期連結累計期間のソフトウェア基盤技術事業の売上高は1,422,422千円（前第3四半期連結累計期間の売上高1,770,070千円）、コンテンツ・サービス等事業の売上高は2,952,512千円（前第3四半期連結累計期間の売上高3,948,302千円）となりました。営業損益につきましては、ソフトウェア基盤技術事業の営業損失は321,690千円（前第3四半期連結累計期間の営業損失1,037,564千円）、コンテンツ・サービス等事業の営業損失は748,871千円（前第3四半期連結累計期間の営業損失409,874千円）となりました。

また、当第3四半期連結累計期間においてセグメント損失の調整額が807,831千円（前第3四半期連結累計期間のセグメント損失の調整額909千円）が発生しております。セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は4,374,934千円（前第3四半期連結累計期間の売上高5,718,372千円）となりました。営業損益につきましては、1,878,392千円の営業損失（前第3四半期連結累計期間の営業損失1,448,348千円）となりました。経常損益につきましては、主に円安による為替差益60,502千円の計上等により、1,809,504千円の経常損失（前第3四半期連結累計期間の経常損失1,459,613千円）となりました。四半期純損益につきましては、1,785,068千円の四半期純損失（前第3四半期連結累計期間の四半期純損失2,200,896千円）となりました。

通期業績予想についても見直しを行い、売上高は5,633百万円（当初予想は売上高8,182百万円）、営業損益につきましては、2,493百万円の営業損失（当初予想は営業損失613百万円）、経常損益につきましては、2,425百万円の経常損失（当初予想は経常損失651百万円）、当期純損益につきましては、2,448百万円の当期純損失（当初予想は当期純損失798百万円）に修正いたしました。来期に向けて、より一層のコスト削減と更なる営業努力による売上高の増加に努めてまいります。

なお、来期以降に向けての事業構造の改革が緒に就いたとはいえ、今回の事業改革は株主や従業員を含め、多くの方々に大きな負担を強いていることを重く受け止めており、事業の再興に向け断腸の思いで取り組んでおります。当第3四半期連結累計期間において受託業務や海外事業を担当していた当社取締役計4名の辞任を含め、引き続き業務を執行する当社及び連結子会社のすべての取締役及び執行役員が、経営責任を明確にするためにも各自が業績の状況に鑑み報酬の自主返上を行っております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第3四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末と比較して1,930,215千円減少し10,650,616千円となりました。これは、現金及び預金が1,337,424千円、受取手形及び売掛金が256,993千円、ソフトウェアが144,136千円、投資有価証券が79,297千円減少したこと等によるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して306,572千円減少し1,965,999千円となりました。これは、支払手形及び買掛金が141,565千円、未払金が139,060千円それぞれ減少したこと等によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して1,623,642千円減少し8,684,616千円となりました。これは、主に四半期純損失を1,785,068千円計上したことに伴い利益剰余金が減少したこと等によるものです。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率につきましては、前連結会計年度末と比較して0.3ポイント減少し、82.0%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間における業績の進捗を勘案し、修正しております。詳細は、「(1) 連結経営成績に関する定性的情報」及び本日公表の「平成25年12月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,442,333	2,104,909
受取手形及び売掛金	1,441,801	1,184,807
有価証券	3,008,894	2,976,523
商品及び製品	360,201	370,881
仕掛品	227,277	303,517
その他	701,747	226,764
貸倒引当金	△31,236	△14,125
流動資産合計	9,151,018	7,153,279
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	476,501	414,150
機械、運搬具及び工具器具備品（純額）	185,799	156,018
土地	46,000	46,000
建設仮勘定	2,803	—
有形固定資産合計	711,105	616,168
無形固定資産		
のれん	294,690	214,320
ソフトウェア	1,214,007	1,069,870
ソフトウェア仮勘定	290,889	640,478
その他	5,094	38,340
無形固定資産合計	1,804,680	1,963,009
投資その他の資産		
投資有価証券	201,104	121,807
その他	712,922	796,351
投資その他の資産合計	914,027	918,158
固定資産合計	3,429,812	3,497,336
資産合計	12,580,831	10,650,616

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	457,652	316,087
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	43,937	37,980
未払金	428,427	289,367
未払法人税等	40,665	21,477
前受金	378,954	540,327
賞与引当金	75,681	100,132
返品調整引当金	29,211	21,397
受注損失引当金	101,571	—
その他	469,366	409,552
流動負債合計	2,125,469	1,836,323
固定負債		
長期借入金	115,985	87,500
退職給付引当金	16,343	21,285
その他	14,774	20,891
固定負債合計	147,102	129,676
負債合計	2,272,572	1,965,999
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,264,700	13,264,700
利益剰余金	△2,567,550	△4,352,618
自己株式	△11,077	△11,906
株主資本合計	10,686,072	8,900,175
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△212,725	△103,474
繰延ヘッジ損益	31,190	—
為替換算調整勘定	△148,617	△64,408
その他の包括利益累計額合計	△330,152	△167,883
新株予約権	△47,660	△47,674
純資産合計	10,308,259	8,684,616
負債純資産合計	12,580,831	10,650,616

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	5,718,372	4,374,934
売上原価	4,995,923	4,119,678
売上総利益	722,449	255,256
販売費及び一般管理費	2,170,797	2,133,649
営業損失(△)	△1,448,348	△1,878,392
営業外収益		
受取利息	14,148	9,524
受取配当金	900	—
為替差益	1,707	60,502
その他	5,197	10,480
営業外収益合計	21,952	80,507
営業外費用		
支払利息	582	3,008
投資事業組合運用損	11,504	—
持分法による投資損失	12,964	—
支払手数料	8,133	1,100
貸倒損失	—	7,500
その他	32	10
営業外費用合計	33,217	11,618
経常損失(△)	△1,459,613	△1,809,504
特別利益		
投資有価証券売却益	13,587	3,159
その他	100	14
特別利益合計	13,687	3,173
特別損失		
固定資産除却損	5,568	10,943
のれん償却額	655,200	—
その他	—	1,511
特別損失合計	660,768	12,455
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,106,693	△1,818,786
法人税、住民税及び事業税	108,766	35,312
法人税等調整額	△14,563	△69,030
法人税等合計	94,202	△33,718
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△2,200,896	△1,785,068
四半期純損失(△)	△2,200,896	△1,785,068

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△2,200,896	△1,785,068
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△37,331	109,250
繰延ヘッジ損益	21,075	△31,190
為替換算調整勘定	10,265	84,209
持分法適用会社に対する持分相当額	7,198	—
その他の包括利益合計	1,209	162,269
四半期包括利益	△2,199,686	△1,622,799
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,199,686	△1,622,799

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。